Y03a 京都産業大学神山天文台「天文学を伝える」学生を育成する取り組み

吉川智裕, 中道晶香, 河北秀世, 藤代尚文（京都産業大学）, 橋本未緒（佐賀県立宇宙科学館）

京都産業大学神山天文台では、土曜日の一般公開をはじめとして様々な社会教育活動を行っている。大学の中にこのような社会教育の場が存在することは稀なことであり、大学に通う学生にとっては「天文学を伝える」現場で活躍することができるよい機会となる。そこで、神山天文台のスタッフが中心となり、天文学を伝える実践教育を本学の学生に対してこれまで 3 年間実施してきた。実施の形態は、神山天文台スタッフの公開業務をアルバイトとしてサポートする「補助員」、補助員となる学生を育成する「補助員養成講座」、さらに学生同士で集まって自律的な活動からレベルアップを目指す「神山天文台ボランティアチーム」の 3 つからなる。本講演では、主に補助員養成講座の実施とその効果について報告する。

補助員養成講座では、天体観望会を実施するための技術に重きを置いた教育を実施している。天文学の知識だけではなく、天体望遠鏡の仕組みや天体の探し方などの「知識」、天体望遠鏡を使って天体を導入し、来場者に合わせた天体解説を行う「実習」が主な内容である。講座は年 5 回、2 時間の講義の後で夜間の観望会実習を行う。4 回以上出席した学生は「解説補助員資格」を取得し、次年度から補助員として勤務することができる。受講者は全学から募集し、理学部で天文学を学ぶ学生だけでなく文系の学生も参加している。2012 年度は 24 名、これまで 3 年間で延べ 78 名が受講し、約半数が補助員資格を取得して補助員となっている。

講座の学生に対する効果は、受講生へのアンケートから分析した。これまでのアンケートから、講座の中で一定の知識をつけることはできるものの、実際に自分で観望会を実施するための実習や実践が足りないと感じている受講生が多いことがわかった。これらの結果を踏まえた講座の改善や来年度以降の計画についてもまとめる。